

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300227		
法人名	特定非営利活動法人 福祉の里なかつ応援隊		
事業所名	グループホーム こもれびの里 南ユニット		
所在地	大分県中津市大字伊藤田1064番地1		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	R3年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域とのつながりを継続できるように、地域の情報収集や、地域の方たちの生活のお困りごとのご相談に乗れるように、H30年度より介護相談所を設置し、毎週水曜日に近くのスーパーに職員が出向いています。施設の職員やご利用者が参加して、月に1回地域の清掃活動を行っています。②ケアプランに沿ったサービスが提供できるように、スタッフ間で細かい個別計画を作成して、毎月モニタリングを行っている。③施設の畑で育てた野菜を食事の食材に利用している。ご利用者は、収穫を楽しまれて、料理の下ごしらえの手伝いなどを職員と一緒にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・のどかな田園地帯に位置し、バラやあじさい、栗の木などが植えられており、四季折々の風景を楽しむことができる。
- ・看護師資格者や介護熟練の職員が多く、協力医と連携して終末期まで対応できる体制が整えられており、利用者や家族は安心である。
- ・利用者の時間を拘束せず、自由にその人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、理念の唱和を行い、職員全員に周知してもらい、意識をもって実践につなげている。	事務所の目に付くところに理念を掲示し、職員皆で暗唱し実践につなげている。利用者の生活を大事にしてその人らしい暮らしが送れるように支援している。又、地域に根差した活動を行い地域の中の施設であろうとする姿勢が取られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、地域の清掃活動を実施して、ご利用者や職員が参加をしている。地域の区長さんや民生委員さんに運営推進会議の委員になって頂き、定期的な情報提供と意見交換をさせていただいている。	月1回利用者と一緒に施設の周りのゴミ拾いを行っている。推進会議にも地域の人に入ってもらう交流を図っている。地区の盆踊りや椿祭りに参加したり、秋の収穫祭には地区の人を招待したり双方向の交流がもたれている。今年度はコロナ禍の影響で出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、グループホームの業務運営の方法や認知症に特化した支援方法、制度内での決まりに沿ったケア方法などを広く知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月の開催を定期的に行っている。意見交換を行い、いただいた助言は、施設運営に反映をさせて頂いている。会議の報告は、中津市や担当の包括センターに、都度行っている。	コロナ禍で会議は開かれず、資料を送り意見をもらっている。事業所のコロナ対策を説明したり、利用者の様子やヒヤリハット事例などを報告している。地区の人から車いすの押し方を教えてほしいとの要望が出た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	1回/2か月の運営推進会には、中津市・中津市地域包括支援センター三光園の担当者に参加して頂いている。施設の運営について報告をし、情報共有を図りながら、多方面のアドバイスを頂いている。	介護保険制度や利用者についてなど相談があれば直接市の窓口に行きアドバイスももらっている。利用者が離脱した時の対応の仕方などの助言を受けている。実地指導があり市との連携を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットでの、所在確認票のチェックを時間ごとに記入し、以前よりも密に見守りを強化している。ハード面では、玄関に近いところに、格子戸を取り付け、鍵をかけないケアの方法を取り入れている。また、禁止の具体的な行為について、周知を行っている。	年間の研修計画に組み込んでいる。チェックリストを作り全職員が自らの行動を振り返っている。玄関は施錠せず、格子戸を設け利用者が開けると鈴が鳴り、職員は見守りながら一緒に歩くなど行動を制限しないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やスタッフも、できるだけ研修会に参加する機会をつくり、その都度、伝達を行っている。管理者や職員間では、小さいことでも虐待につながらないように、接遇などの研修を繰り返し行っている。(年間の計画に入れて実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、日常生活自立支援事業・成年後見制度について、テーマを取り上げることができなかったが、次年度に計画を立て、学ぶ機会をつくる予定である。(市民後見人養成講座実習の実習生3名の受け入れを行っている。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、必要時はその都度説明と理解を得ている。料金的なことは、都度書面で説明を行って、理解を深めて頂いている。契約書や重要事項については、変更があれば、その都度、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年までは、2回/年に家族会を開催し、意見交換や要望を確認できる機会をつくるようにしていた。が今年度は、コロナ感染対策のため実施できないため、都度ご利用者様やご家族に直接ご意見をお伺いしている。また、ご意見箱の設置をしている。家族通信や電話で生活の状況を伝えている。	年2回家族会を設け意見交換をしていた。今年はコロナの影響で毎月の請求書郵送時利用者の情報を提供し意見をもらっている。事業所より電話をかけたり、家族からかかってくるなど話しやすい雰囲気を作っている。もらった意見を支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に、全体スタッフ会議を開催し、管理者やスタッフが参加して、意見交換や情報提供の機会をつくっている。職員に対して、管理者は個別に面談を行っている。	毎月全体会議やユニット会議で意見交換を行っている。処遇や働き方など要望を聞いて出来る事は取り上げて改善をしている。休憩時間の確保は要望に沿って実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	⑪に記入のように、定期的、もしくは必要時に管理者が職員と面談を行い、個人的に職員の意見を聞いたり、職場環境についても見直しができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、現場でのスタッフの業務内容と力量を把握し、それぞれ職員のスキルアップと研修参加を促している。職員に平等に研修の機会をつくるようにしている。それぞれのユニットで主任・副主任を配置し、OJTを行いながら、指導方法を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市内のグループホームの連絡会議に定期的に参加をして、情報の交換を行っている。(例年、合同研修会の参加を職員に促しているが、今年度は研修会の開催ができませんでした。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・CM・職員がなるべく多く、コミュニケーションを図り、ご本人の不安を軽減できるように働きかけている。できるだけ、ご本人の思いを聞き出せるように、心がけている。サービス担当者会議を開催している。アセスメント時に、できるだけ要望を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や、その都度ご本人やご家族にお困りのことはないか、お話を聞いている。アセスメントやケアプランに反映させて、職員やご家族にCMや管理者から介護の方法や要望を伝えている。ご家族にも確認をしていただき、意見を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームであるが、相談の段階で、ご家族の要望を確認をして、施設サービスと合致しているかを見極めている。その方にあつた支援についての、情報提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様がそれぞれ持っている能力に応じて、生活支援の中で、できるところをご本人に手伝って頂けるように、職員が配慮をしている。接遇等の研修を通して、生活共同体であることを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者やCM、スタッフが、できるだけご家族と会話をする機会をつくり、ご家族にできることを協力を求め、共同で支援を行っている意識を持つように働きかけている。ご本人とご家族との距離が、遠くならないように、ご家族に働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者や職員は、ご家族・友人・近隣の知人など、面会の機会を大切にしている。ご本人様の生活の様子を、詳しくお伝えして、安心して頂くように心がけている。(今年度は、コロナウイルス感染対策のため、限られた機会のみとしている)	コロナ禍で面会は制限されているが、タブレット端末を利用してリモート面会が出来るよう準備を進めている。2ヶ月に1度健康チェックなどコロナ対策の上馴染みの美容室が来所している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を大切にしている。聴力障害がある方が多いため、職員が間に入り会話や関係づくりができるように、心がけている。利用者様同士の関係を大切にして、助け合えるように、職員は席順など配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に至っても、病院のSWやご利用者様のご家族に連絡を入れて、相談や支援の継続について、声をかけている。退去されても、御家族様にご本人様のご様子を伺ったり、ご家族とのつながりが切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接思いを聞き取っている。認知症のため、意思を表示できない方は、ご家族に確認をするか、ご本人のご様子を観察しながら、思いを察することができるようにしている。	日々支援する中で利用者より直接言葉を聞いて思いの把握に努めている。家族に電話をして要望などを聞いて支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入居時に、担当をしていた居宅支援事業所のCMIに情報提供を求めて、内容を把握するようにしている。また、入居後もご本人やご家族に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者・CM・職員で朝の申し送りやカンファレンスを利用して、状態の確認や情報共有に努めている。スタッフやCMも生活の過ごし方を観察しながら、必要な介護方法を都度、話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度サービス担当者会議やカンファレンスを開催して、ケアプランの立案や見直しを行っている。ケアプラン以外に、現場の介護個別計画を作成し、その都度見直しを行っている。	居室担当者や主任を交えみんなで検討している。計画に沿って個別プランを作成して、適時見直しを行っている。何かあればその都度カンファレンスを開催して、プランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や介護支援経過に日々の記録を残すようにして、介護計画の参考にしている。個別計画については、実践後の記録を残して、モニタリングの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスのみ偏らないように、地域やご家族のご協力をお願いしながら、ケアプランに活かしていきたいと思っている。地域密着型での施設として、介護サービス以外にボランティアなどの協力も支援と考えている。(今年度は、支援をお願いできなかった)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービスの特色を活かして、地域住民との交流や地域資源を利用できるように、少しずつではあるが、ご利用者様の支援に結びつけている。地域の活動に参加したり、施設がある地域の散歩や気分転換を行っている。(今年度は行事参加はできなかった。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携をとりながら、慢性疾患や認知症が増悪しないように、体調管理に努めている。ご家族と協力しながら、病院受診や薬の管理を行っている。	入所以前からのかかりつけ医をそのまま継続することが出来る。受診は家族対応であるが、行けない時は職員が同行している。協力医との連携で看取りも行っている。いつでも往診してもらえる体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職や看護職が同じ職場内で、情報共有や相談ができるような体制をとっている。2ユニットの管理者が看護職である為、常日頃より医療的な問題は、早急に解決できるように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院の医療連携室と連絡をとりながら、退院に向けて支援を行っている。病院への情報提供や、できるだけ病院に足を運びながら、顔が見える関係づくりに努めている。病院の主治医や現場スタッフ、相談員などと、情報の共有ができるように、連絡を密に取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一旦は、入所時に、ご家族に対して、重度化・終末期についての説明を行うようにしている。ご利用者様の状態に応じて、主治医とご家族様との話し合いを、その都度行って、書類の内容を見直している。	重度化した場合の対応の説明を家族にしているが、様子を見ながら状態によりその都度家族と話し合っている。看取りを希望すれば病院と連絡を取りながら対応している。看護師資格の職員が多く、医療面でも体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらかじめ、急変のお恐れがある利用者様については、管理者が職員に指示を出して、対応できるようにしている。管理者と連絡がとれるような体制をつくっている。目につきやすい場所に、職員の連絡網や緊急時連絡先を設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、防災訓練(防火訓練)を実施している。自然災害についても、運営推進会議などで、地域の方にも意見を頂き、対応方法について、施設の考えを伝えている。(前年度)	火災想定避難訓練を行っている。防災士資格を持つ職員を中心に消火器の使い方や避難誘導の訓練が行われている。災害発生時には地区の人を駆けつけてくれる体制が整っている。備蓄も施設内に5日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に掲げ、職員一同心がけている。気になることがあれば、職員間で注意をし合ったり、管理者がその場ですぐに指導をするようにしている。接遇の研修や権利擁護の研修を行い、職員に意識を持って頂き、管理者も声掛けをしている。	利用者一人ひとりのリズムを大切にしたい事を重視し、思いを尊重している。ケアの場面でのプライバシーの確保や声掛けに気を付けている。居室やその人の空間を大事にしている。権利擁護の研修に参加し、皆で意識を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の表出ができるように、管理者・職員がご利用者様に、働きかけを行っている。できない方は、表出しやすいように、言い方をかえたり、職員がくみ取ることができるように努めている。ご家族と連絡をとり、細かいことでも、代わりに意見を頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、利用者様の生活のペースでお手伝いをするように、心がけている。毎日の生活に変化がもてるように、ご利用者様と相談をしながら、お手伝いしている。ご利用者様の趣味や得意なことを優先して、職員が働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族がお持ちになった衣服を中心に、その方にあったコーディネートで職員が選んでお手伝いしている。髭剃りや整髪は、身だしなみを行う上できれいにできるように、職員が気を配っている。ご本人の意向も組み入れて、お手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設は、併設の施設で調理したものを、昼・夜と提供をしている。基本的に、職員が準備や後片付けを行っているが、ご利用者様の意欲や状態に応じて、職員が声をかけて、協力を依頼している。(おやつ作成や汁物の団子づくり)	朝食のみ施設内で調理しており、他は併設の厨房より運ばれてくる。団子を丸めたり、野菜の皮をむいたり利用者の出来る事を手伝ってもらっている。畑で採れた野菜を食材にして新鮮で旬の物が食べられ季節感のある献立である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは、施設の厨房で管理をしており、栄養のバランスがしっかりと摂れている。それぞれの利用者様が食事や水分が十分に摂れているかは、現場の職員がチェック表に記録をとりながら、管理者と相談をしている。食事以外の補食を取り入れながら、カロリーや水分量に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを各ご利用者様がやっている。(職員が、管理をして、全員が行っている。ご利用者様の能力に応じて、職員が手伝っている。)基本的に、共用スペースの食堂に、洗面所があるが、職員が管理をしながら、毎食後に口腔ケアを行い、夜間は義歯の消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった方法で、排泄の手伝いをしている。日中は、できるだけトイレでの排泄ができるように、職員と工夫をしている。それぞれの排泄パターンをアセスメントして、個別のケアを心がけている。	日中はほとんどの人がトイレ使用である。立てない人も2人対応でトイレでの排泄に努めている。遠目で様子を見ながら自立支援に努めている。夜間は時間を見てトイレ誘導したり、パット交換をするなどして睡眠を考慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜が多いため、できるだけ完食ができるように、職員が声をかけて支援をしている。水分摂取も職員がチェック表を作り、飲水量の管理をしている。運動が十分できない利用者様は、主治医に下剤や緩下剤の処方依頼している。集団体操や歩行訓練等、運動の時間も毎日つけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員はむづかしいが、中には入浴の時間を、その方の状況に合わせて決めさせてもらっている。その方のADL等もあるが、入浴方法もその方にあった方法を選んでお手伝いをしている。入浴利用の回数や回数は、施設で決めているが、必要時にできるように、臨機応変の対応もおこなっている。	週2回の入浴であるが、希望すれば平日何時でも入浴が出来る。入浴を拒否する場合は無理強いせず清拭に変えたり、時間や日を変えたりしている。入浴の順番も希望があれば応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のバランスが、とれない利用者様には、日中の過ごし方や眠剤の利用など主治医と相談をすることもあ。その方の夜間の過ごし方も、状況や要望を確認しながら支援をするようにしている。安眠がとれるように、日中の過ごし方も職員が気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者やスタッフの看護師が中心に、服薬の管理と体調の観察を行っている。定期的な受診は、管理者が主に対応しており(家族の協力もある)、主治医や薬局との連携に努めている。投薬は、事故のないようにスタッフがやっている。内服薬の情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様の嗜好や楽しみなど、個別でそれぞれが時間をとれるように、職員が支援をしている。個人的でなく、他のご利用者様と共有できるように、職員が気を配っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様のご要望をお聞きして、自宅への外出を行っている。(ご家族の協力が得られる場合に、職員も協力)施設行事で、出かけることが多いが、今年度は機会をつくることができず、施設の敷地内や近辺の散歩を行っている。その際に、季節の花々を楽しんで頂いた。	コロナの影響で実施できていないが、例年大貞公園やコスモス園へドライブに出かけている。今年度は近所のお寺へ桜見に行ったり、施設の周りにはバラやあじさいが植えられており散歩しながら季節を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、管理者がそれぞれご利用者の小遣いを管理して、必要な物の購入や支払いをしている。買い物支援の外出の機会がとりづらく、職員やご家族がご本人様の要望にお答えして、買い物をやっている。(担当職員が)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者や職員がお手伝いをしている。難聴がある利用者様が多いため、電話での会話がしやすいように、管理者や職員が手伝いをしたり、手紙と一緒に読みながらご本人にお伝えできるように、努めている。ご本人が、電話の利用を希望された場合は、一緒に手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができるように、目につく場所にお花を飾ったり、ご利用者の作品を展示したりと工夫を行っている。室温や湿度など細かく職員が管理をしている。できるだけ清潔な環境で、ご利用者が、利用しやすいように、心がけている。	空気清浄機が完備され、換気にも気を付けている。テーブルや手すりなど常に消毒をしている。玄関やホールには四季の花を飾り、目を楽しませてくれる。大きな窓からは中庭を見ることが出来、明るく開放的なホールである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で、くつろぐ時間がとれるように、職員が配慮をしている。(共通の趣味や交流がはかれるように、ご本人様の情報をもとに、席を決めるようにしている。)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅のお部屋に近づけられるように、ご家族にお願いをして、荷物の準備を、してもらっている。できるだけ、心が落ち着けるように、写真や思い出の品を飾ったりと工夫をしている。	家から家具やテレビ、小物など見慣れた物が持ち込まれ、家族との写真や折り紙の作品を飾り居心地の良い部屋作りとなっている。部屋は整頓され清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はもちろん、共用スペースは、安全第一に机や椅子・ベットなどの配置を考えている。転倒事故を起こさないように、ご利用者の導線を考えながら、動きやすいようにしている。自分の居室やトイレが分かりやすいように、目印をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300227		
法人名	特定非営利活動法人 福祉の里なかつ応援隊		
事業所名	グループホーム こもれびの里 北ユニット		
所在地	大分県中津市大字伊藤田1064番地1		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	R3年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域とのつながりを継続できるように、地域の情報収集や、地域の方たちの生活のお困りごとのご相談に乗れるように、H30年度より介護相談所を設置し、毎週水曜日に近くのスーパーに職員が出向いています。施設の職員やご利用者が参加して、月に1回地域の清掃活動を行っています。②ケアプランに沿ったサービスが提供できるように、スタッフ間で細かい個別計画を作成して、毎月モニタリングを行っている。③施設の畑で育てた野菜を食事の食材に利用している。ご利用者は、収穫を楽しまれて、料理の下ごしらえの手伝いなどを職員と一緒にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム こもれびの里 南ユニットに記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、理念の唱和を行い、職員全員に周知してもらい、意識をもって実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、地域の清掃活動を実施して、ご利用者や職員が参加をしている。地域の区長さんや民生委員さんに運営推進会議の委員になって頂き、定期的な情報提供と意見交換をさせていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、グループホームの業務運営の方法や認知症に特化した支援方法、制度内での決まりに沿ったケア方法などを広く知って頂いている。近くのフードセンター内で、介護相談所を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月の開催を定期的に行っている。意見交換を行い、いただいた助言は、施設運営に反映をさせて頂いている。会議の報告は、中津市や担当の包括センターに、都度行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1回/2か月の運営推進会には、中津市・中津市地域包括支援センター三光園の担当者に、参加をして頂いている。施設の運営について報告をし、情報共有を図りながら、多方面のアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットでの、所在確認票のチェックを時間ごとに記入し、以前よりも密に見守りを強化している。ハード面では、玄関に近いところに、格子戸を取り付け、鍵をかけないケアの方法を取り入れている。また、禁止の具体的な行為について、周知を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やスタッフも、できるだけ研修会に参加をする機会をつくり、その都度、伝達を行っている。管理者や職員間では、小さいことでも虐待につながらないように、接遇などの研修を繰り返し行っている。(年間の計画に入れて実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、権利擁護について、テーマを取り上げることができなかったが、次年度に計画を立て、学ぶ機会をつくる予定である。(市民後見人養成講座実習の実習生3名の受け入れを行っている。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、必要時はその都度説明と理解を得ている。料金的なことは、都度書面で説明を行って、理解を深めて頂いている。契約書や重要事項については、変更があれば、その都度、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年までは、2回/年に家族会を開催し、意見交換や要望を確認できる機会をつくるようにしていた。が今年度は、コロナ感染対策のため実施できないため、都度ご利用者様やご家族に直接ご意見をお伺いしている。また、ご意見箱の設置をしている。家族通信や電話で生活の状況を伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に、全体スタッフ会議を開催し、管理者やスタッフが参加して、意見交換や情報提供の機会をつくっている。職員に対して、管理者は個別に面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	⑪に記入のように、定期的、もしくは必要時に管理者が職員と面談を行い、個人的に職員の意見を聞いたり、職場環境についても見直しができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、現場でのスタッフの業務内容と力量を把握し、それぞれ職員のスキルアップと研修参加を促している。職員に平等に研修の機会をつくるようにしている。それぞれのユニットで主任・副主任を配置し、OJTを行いながら、指導方法を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市内のグループホームの連絡会議に定期的に参加をして、情報の交換を行っている。(例年、合同研修会の参加を職員に促しているが、今年度は研修会の開催ができませんでした。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・CM・職員がなるべく多く、コミュニケーションを図り、ご本人の不安を軽減できるように働きかけている。できるだけ、ご本人の思いを聞き出せるように、心がけている。サービス担当者会議を開催している。アセスメント時に、できるだけ要望を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や、その都度ご本人やご家族にお困りのことはないか、お話を聞いている。アセスメントやケアプランに反映させて、職員やご家族にCMや管理者から介護の方法や要望を伝えている。ご家族にも確認をしていただき、意見を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームであるが、相談の段階で、ご家族の要望を確認をして、施設サービスと合致しているかを見極めている。その方にあつた支援についての、情報提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様がそれぞれ持っている能力に応じて、生活支援の中で、できるところをご本人に手伝って頂けるように、職員が配慮をしている。接遇等の研修を通して、生活共同体であることを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者やCM、スタッフが、できるだけご家族と会話をする機会をつくり、ご家族にできることを協力を求め、共同で支援を行っている意識を持つように働きかけている。ご本人とご家族との距離が、遠くならないように、ご家族に働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者や職員は、ご家族・友人・近隣の知人など、面会の機会を大切にしている。ご本人様の生活の様子を、詳しくお伝えして、安心して頂くように心がけている。(今年度は、コロナウイルス感染対策のため、限られた機会のみとしている)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を大切にしている。視力障害や聴力障害がある方が多いため、職員が間に入り会話や関係づくりができるように、心がけている。利用者様同士の関係を大切に、助け合えるように、職員は席順など配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に至っても、病院のSWやご利用者様のご家族に連絡を入れて、相談や支援の継続について、声をかけている。退去されても、御家族様にご本人様のご様子を伺ったり、ご家族とのつながりが切れないようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接思いを聞き取っている。認知症のため、意思を表示できない方は、ご家族に確認をするか、ご本人のご様子を観察しながら、思いを察することができるようにしている。(十分にできていない。)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入居時に、担当をしていた居宅支援事業所のCMIに情報提供を求めて、内容を把握するようにしている。また、入居後もご本人やご家族に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者・CM・職員で朝の申し送りやカンファレンスを利用して、状態の確認や情報共有に努めている。スタッフやCMも生活の過ごし方を観察しながら、必要な介護方法を都度、話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度サービス担当者会議やカンファレンスを開催して、ケアプランの立案や見直しを行っている。ケアプラン以外に、現場の介護個別計画を作成し、その都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や介護支援経過に日々の記録を残すようにして、介護計画の参考にしている。個別計画については、実践後の記録を残して、モニタリングの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスのみにならないように、地域やご家族のご協力をお願いしながら、ケアプランに活かしていきたいと思っている。地域密着型での施設として、介護サービス以外にボランティアなどの協力も支援と考えている。(今年度は、支援をお願いできなかった)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービスの特色を活かして、地域住民との交流や地域資源を利用できるように、少しずつではあるが、ご利用者様の支援に結びつけている。地域の活動に参加したり、施設がある地域の散歩や気分転換を行っている。1回/月の清掃活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携をとりながら、慢性疾患や認知症が増悪しないように、体調管理に努めている。ご家族と協力しながら、病院受診や薬の管理を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職や看護職が同じ職場内で、情報共有や相談ができるような体制をとっている。2ユニットの管理者が看護職である為、常日頃より医療的な問題は、早急に解決できるように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院の医療連携室と連絡をとりながら、退院に向けて支援を行っている。病院への情報提供や、できるだけ病院に足を運びながら、顔が見える関係づくりに努めている。病院の主治医や現場スタッフ、相談員などと、情報の共有ができるように、連絡を密に取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一旦は、入所時に、ご家族に対して、重度化・終末期についての説明を行うようにしている。ご利用者様の状態に応じて、主治医とご家族様との話し合いを、その都度行って、書類の内容を見直している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらかじめ、急変のお恐れがある利用者様については、管理者が職員に指示を出して、対応できるようにしている。管理者と連絡がとれるような体制をつくっている。目につきやすい場所に、職員の連絡網や緊急時連絡先を設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、防災訓練(防火訓練)を実施している。自然災害についても、運営推進会議などで、地域の方にも意見を頂き、対応方法について、施設の考えを伝えている。(前年度)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に掲げ、職員一同心がけている。気になることがあれば、職員間で注意を合ったり、管理者がその場ですぐに指導をするようにしている。接遇の研修や権利擁護の研修を行い、職員に意識を持って頂き、管理者も声掛けをしている。(言葉づかいができない職員もいる)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の表出ができるように、管理者・職員がご利用者様に、働きかけを行っている。できない方は、表出しやすいように、言い方をかえたり、職員がくみ取ることができるよう努めている。ご家族と連絡をとり、細かいことでも、代わりに意見を頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、利用者様の生活のペースでお手伝いをするように、心がけている。毎日の生活に変化がもてるように、ご利用者様と相談をしながら、お手伝いしている。ご利用者様の趣味や得意なことを優先して、職員が働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族がお持ちになった衣服を中心に、その方にあったコーディネートで職員が選んでお手伝いしている。髭剃りや整髪は、身だしなみを行う上できれいにできるように、職員が気を配っている。ご本人の意向も組み入れて、お手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設は、併設の施設で調理したものを、昼・夜と提供をしている。基本的に、職員が準備や後片付けを行っているが、ご利用者様の意欲や状態に応じて、職員が声をかけて、協力を依頼している。(おやつ作成や汁物の団子づくり)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは、施設の厨房で管理をしており、栄養のバランスがしっかりと摂れている。それぞれの利用者様が食事や水分が十分に摂れているかは、現場の職員がチェック表に記録をとりながら、管理者と相談をしている。食事以外の補食を取り入れながら、カロリーや水分量に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを各ご利用者様がやっている。(職員が、管理をして、全員が行っている。ご利用者様の能力に応じて、職員が手伝っている。)基本的に、共用スペースの食堂に、洗面所があるが、職員が管理をしながら、毎食後に口腔ケアを行い、夜間は義歯の消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった方法で、排泄の手伝いをしている。日中は、できるだけトイレでの排泄ができるように、職員と工夫をしている。それぞれの排泄パターンをアセスメントして、個別のケアを心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜が多いため、できるだけ完食ができるように、職員が声をかけて支援をしている。水分摂取も職員がチェック表を作り、飲水量の管理をしている。運動が十分できない利用者様は、主治医に下剤や緩下剤の処方をお願いしている。集団体操や歩行訓練等、運動の時間も毎日つくっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員はむづかしいが、中には入浴の時間を、その方の状況に合わせて決めさせてもらっている。その方のADL等もあるが、入浴方法もその方にあった方法を選んでお手伝いをしている。入浴利用の時間や回数は、施設で決めているが、必要時にできるように、臨機応変の対応もおこなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のバランスが、とれない利用者様には、日中の過ごし方や眠剤の利用など主治医と相談をすることもある。その方の夜間の過ごし方も、状況や要望を確認しながら支援をするようにしている。安眠がとれるように、日中の過ごし方も職員が気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者やスタッフの看護師が中心に、服薬の管理と体調の観察を行っている。定期的な受診は、管理者が主に対応しており(家族の協力もある)、主治医や薬局との連携に努めている。投薬は、事故のないようにスタッフがやっている。内服薬の情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様の嗜好や楽しみなど、個別でそれぞれが時間をとれるように、職員が支援をしている。個人的でなく、他のご利用者様と共有できるように、職員が気を配っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様のご要望をお聞きして、自宅への外出を行っている。(ご家族の協力が得られる場合に、職員も協力)施設行事で、出かけることが多いが、今年度は機会をつくることができず、施設の敷地内や近辺のお散歩を行っている。その際に、季節の花々を楽しんで頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、管理者がそれぞれご利用様の小遣いを管理して、必要な物の購入や支払いをしている。買い物支援の外出の機会がとりづらく、職員やご家族がご本人様の要望にお答えして、買い物を行っている。(担当職員が)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者や職員がお手伝いをしている。難聴がある利用者様が多いため、電話での会話がしやすいように、管理者や職員が手伝いをしたり、手紙と一緒に読みながらご本人にお伝えできるように、努めている。ご本人が、電話の利用を希望された場合は、一緒に手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができるように、目につく場所にお花を飾ったり、ご利用様の作品を展示したりと工夫を行っている。室温や湿度など細かく職員が管理をしている。できるだけ清潔な環境で、ご利用様が、利用しやすいように、心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で、くつろぐ時間がとれるように、職員が配慮をしている。(共通の趣味や交流がはかれるように、ご本人様の情報をもとに、席を決めるようにしている。)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅のお部屋に近づけられるように、ご家族にお願いをして、荷物の準備を、してもらっている。できるだけ、心が落ち着けるように、写真や思い出の品を飾ったりと工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はもちろん、共用スペースは、安全第一に机や椅子・ベットなどの配置を考えている。転倒事故を起こさないように、ご利用様の導線を考えながら、動きやすいようにしている。自分の居室やトイレが分かりやすいように、目印をしている。		